

Fashion

人事のファッション機能学

服装を変えると仕事への意識や行動も変わる

内勤職から営業に異動し、取引先とのコミュニケーションに悩む20代後半の方から服装のご相談を受けたことがあります。取引先の担当者は50代男性が多いとのこと。それまで着ていた流行の細身のスーツでは、浮ついた印象を与えてしまいます。そこで、身体に適度に合ったサイズのスタンダードなスーツで、誠実さを印象づけるようアドバイスしました。その後、取引先との信頼関係を築くことができ、仕事に対する自信が生まれたと、ご報告をいただきました。

これは、特別な例ではありません。相手に与える印象は、服装で変わります。仕事上のポジションにふさわしい服装をすることで相手に信頼感を与え、その信頼にこたえようとして自分自身も変わっていくのです。昇格や異動後に伸び悩んでいる場合、服装の見直しも効果的なことも少なくありません。

服装を見直すにあたり、スーツやネ

ADVISER



政近 準子氏

ファッションレスキュー
代表取締役社長
パーソナルスタイリスト

Masachika Junko_アパレルのデザイナーを経て、2001年個人向けスタイリングを行う「ファッションレスキュー」を創業。顧客は政治家、経営者など1万人を超える。

標準幅（20～22センチ）のダブルのパンツは落ち着いた印象。裾が靴の甲にしっかり当たる長さがバランスよく見える。



細身（18～20センチ）のシングルパンツは、若々しく行動的な印象を与える。裾が靴の甲に軽く当たるか当たらないか程度の長さがよい。

女性の場合は、スカート丈はひざ上5センチ～ひざ下7センチがビジネスの標準。短いと軽快感、長いと落ち着きが出る。

クタイには配慮しても、パンツの丈、靴下、靴など足元がおろそかになる人は多いものです。とくに目立つのは靴下。ビジネス用の靴下はひざ下丈の長靴下で、色はスーツの色に合わせるのが基本。学生が履くような白い靴下や、脚を組んだときに素肌が見えるような短い靴下はだらしない印象を与えます。

逆に、足元に配慮がなされていると好印象です。パンツと靴、靴下のバランスで全体の雰囲気も変わるので、基本を知っておくと、なりたい自分を演出するためにひと役買ってくれるでしょう。パンツの裾の折り返しにはシングルとダブルがあり、細身でシングルパンツにすっきりしたラインの靴を合わせると若々しい印象になります。たとえば、長年内勤だった人が営業職に異動し、より活動的になることが求められるというようなケースに取り入れてみてください。管理職に昇進し、

相応の貫禄を持ちたい……など落ち着きを出したい場合は、裾幅が広めのダブルのパンツに少し幅広で厚みのある靴を合わせるとよいでしょう。

もちろん、服装を変えるだけでなく自分自身が変わり、力を発揮できるわけではありません。肝心なのは、職場でのポジションを全うするためにどんな自分であるべきかを考え、服装選びに自分の基準を持つこと。服装を通して今の自分に必要なものを取捨選択することで自らの仕事への覚悟が生まれます。その覚悟が周囲に自信を感じさせて、与えられたポジションにふさわしい人材として評価されるようになるのです。

最後に、靴を磨く、前日に服装を決めるなど準備は常に怠らないようにしましょう。服装の準備によって生まれる心のゆとりが仕事への余裕にもつながります。